

# 定期予防接種の標準的なスケジュール

(注) 接種間隔の起算日は接種した日の翌日です。

		3	6	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		か	か	か	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
B型肝炎 (14頁参照)		↓	↓	↓																				
Hib感染症 (15頁参照)		↓	↓	↓	↓																			
小児の肺炎球菌感染症 (17頁参照)		↓	↓	↓	↓																			
ジフテリア(D) 百日せき(P) 破傷風(T) ポリオ(IPV) (20頁参照)	第1期 (DPT-IPV・ DPT-DT-IPV)	↓	↓	↓	↓																			
	第2期 (DT)																							
BCG (24頁参照)		↓	↓	↓																				
麻疹(はしか)(M) 風しん(R) (MR・M・R) (26頁参照)				↓																				
水痘 (水ぼうそう) (28頁参照)				↓																				
日本脳炎 (30頁参照)				↓																				
ヒトパピローマウイルス感染症 (34頁参照)																								

(注) 平成17(2005)年の積極的な勧奨の差し控えにより、平成7(1995)年4月2日から平成19(2007)年4月1日に生まれ、第1期、第2期の接種を受けられなかった人は、20歳未満であれば、定期接種として受けることができます。

		1	2	3	出生	4	5	6	7	8
		か	か	か	6日	か	か	か	か	か
		月	月	月	後	月	月	月	月	月
ロタウイルス感染症 (14頁参照)	経口弱毒生 ヒトロタウイルスワクチン (1価ワクチン)		↓	↓	↓					
	5価経口弱毒生 ヒトロタウイルスワクチン (5価ワクチン)		↓	↓	↓	↓				

(※) 初回接種については、生後2月に至った日から出生14週6日後までの間を標準的な接種期間として接種します。

予防接種法で定められた定期の予防接種の対象年齢 [ ] を示しましたが、病気にかかりやすい時期を考慮して [ ] の期間での接種が勧められています (標準的な接種期間を当冊子では、この [ ] で表しています。)ので、できるだけこの期間の早い時期に受けましょう。

↓は、好ましい接種時期の1例を示しています。